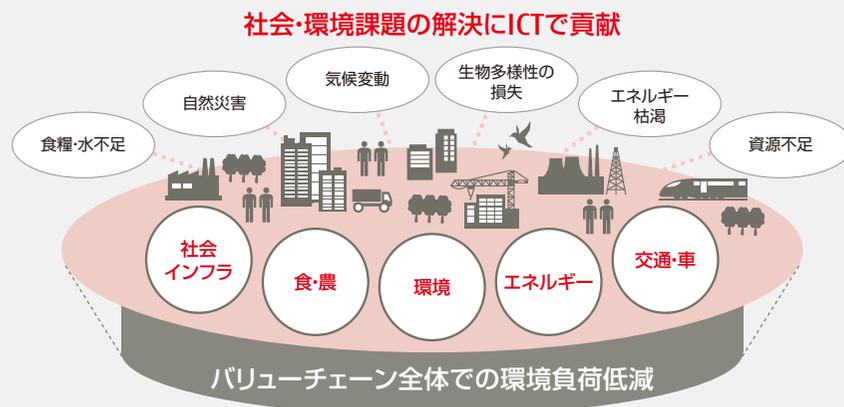


第8期富士通グループ環境行動計画 (2016~2018年度)

富士通グループは、地球の持続可能性への貢献を企業が果たすべき社会的責任の1つと捉え、1993年から3年ごとに環境行動計画を策定し、継続的に環境負荷低減に向けた活動を拡大してきました。一方で、社会・環境問題の解決に向けて、2015年にSDGsが国連で採択され、さらにその年の12月にはCOP21で気候変動対策の新しい枠組み「パリ協定」が合意されました。世界共通の目標が明確化され、企業に対しても、事業戦略と組み合わせたより積極的な取り組みが期待されています。

こうした中、富士通グループでは2016年度から2018年度の環境目標「第8期富士通グループ環境行動計画」を策定しました。この行動計画は「社会への貢献」と「自らの事業活動」の2軸で構成されています。「社会への貢献」ではSDGsへの貢献に資するソリューション開発・提供の拡大などに取り組んでいます。また「自らの事業活動」では、長期的なゼロエミッションの実現に向け、バリューチェーン全体における環境負荷削減に努めています。

第8期環境行動計画の着実な実行を通じて、2017年度に策定した2050年までの中長期環境ビジョン「FUJITSU Climate and Energy Vision」の達成に取り組めます。そして今後も、進化し続けるICTを活用して社会・環境課題の解決に貢献し、持続可能で豊かな社会の実現を目指します。



目標項目		
社会への貢献	ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① ICTサービスの提供により、社会の持続可能な発展に貢献する。 ② 環境課題の解決に向けた革新的技術を開発する。
	製品のライフサイクルにおける環境価値の向上	<ul style="list-style-type: none"> ③ 新製品の50%以上をエネルギー効率トップレベルにする。 ④ 製品の省資源化・資源循環性向上を推進し、新製品の資源効率を15%以上向上する。 ⑤ 事業系ICT製品の資源再利用率90%以上を維持する。
	バリューチェーン全体における温室効果ガス排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 事業拠点の温室効果ガス排出量を削減する。 <ul style="list-style-type: none"> ⑥-1 温室効果ガス排出量を2013年度比5%以上削減する。 ⑥-2 データセンターのPUEを2013年度比で8%以上改善する。 ⑥-3 エネルギー消費原単位を年平均1%以上改善する。 ⑥-4 再生可能エネルギーの利用割合を6%以上に拡大する。(注) ⑦ サプライチェーンにおけるCO₂排出量削減の取り組みを推進する。 ⑧ 輸送における売上高当たりのCO₂排出量を年平均2%以上削減する。
	環境負荷の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 水使用量を累計で1%削減する。(12.8万m³) ⑩ 化学物質(PRTR)排出量を2012~2014年度の平均以下に抑制する。(20.7t) ⑪ 廃棄物発生量を2012~2014年度の平均以下に抑制する。(25,568t)
	自らの事業活動	

(注)当初の「再生可能エネルギーの利用を拡大する」から定量目標に変更。